

## 序章

エイズ<sup>1</sup> (acquired immune-deficiency syndrome : AIDS) は 1981 年、アメリカに住む同性愛男性に世界で初めて発見され症例として報告され、その後 1983 年になってようやくフランスでエイズを発症させるウイルスである HIV<sup>2</sup>(human immunodeficiency virus: ヒト免疫不全ウイルス) が発見された比較的新しい病気である。最初の症例からわずか 10 年程度で感染者は世界で 100 万人にまで拡大していった。そして国連合同エイズ計画<sup>3</sup> (Joint United Nations Programme on HIV and AIDS : UNAIDS)と世界保健機関<sup>4</sup> (World Health Organization : WHO) が共同で発表した 2009 年度版の報告書によると、2008 年末時点で全世界の HIV 感染者総数は 3340 万人に上り、この年新たに 270 万人が HIV に感染し、さらに 200 万人がエイズによって死亡したと推定された。 HIV 感染者総数 3340 万人のうち、2240 万人がサハラ以南アフリカ<sup>5</sup>に居住している人々であるとされており、サハラ以南アフリカにおける HIV/エイズ蔓延が浮き彫りとなった。これが示すところにはサハラ以南アフリカにおける HIV 感染者は全世界の HIV 感染者の 67%を占めているということになるが、サハラ以南アフリカの人口が全世界の総人口の 10%にも満たないことを考えると深刻な問題であることは明らかである。

これまで開発経済学の中で様々な研究が行われた結果、HIV/エイズ蔓延がその国の経済状況に大きな影響を及ぼすということが分かっている。特に、サハラ以南の国々では、HIV/エイズ蔓延によって労働力が減少したり、平均寿命の低下などの問題がこれらの国の経済に大きな打撃を与えていることが有名である。またサハラ以南アフリカに HIV 感染者が多い最も重大な原因として貧困であることが言われており、HIV/エイズとその国の経済との間には双方向に関係がある。

現在 1 国が抱える HIV 感染者の数において世界第 1 位の国は南アフリカである。しかし南アフリカ共和国はサハラ以南アフリカに位置していながら、アフリカ諸国の中では比較的経済的に発展しており、また今年 2010 年にはアフリカ大陸で初めてサッカー・ワールドカップが開催され注目を浴び

---

<sup>1</sup> 後天性免疫不全症候群。HIV が免疫細胞に感染することで免疫不全を起こす。HIV 感染からエイズ発症までに平均 13 年と言われている慢性疾患で、感染経路は性行為・血液感染・母子感染がある。

<sup>2</sup> 人の免疫細胞に感染し、免疫細胞を破壊して、エイズを発症させるウイルス。HIV が人の体内に入り込んだ状態を「HIV 感染」と言う。

<sup>3</sup> 1994 年に HIV 感染対策を目的として世界的に活動を行うために設立された国際機関。本部はスイスのジュネーヴ。10 の国連機関と世界銀行が共同スポンサーとして参画している。

<sup>4</sup> 1948 年に人間の健康を基本的人権の一つと捉え、その達成を目的として設立された国連機関。本部はスイスのジュネーヴ。

<sup>5</sup> アフリカ大陸のサハラから南に位置する 47 カ国を指す。経済的最貧困地域とさせている。よってその経済的發展から南アフリカ共和国はしばしば除外されることがあるが、HIV/エイズ分野においてはサハラ以南アフリカに含まれる。

た。にもかかわらず、HIV/エイズの蔓延が問題になっているのである。開発経済学で言われているように HIV 感染者が多い原因が貧困であることならば、南アフリカにおける HIV/エイズ蔓延と経済の関係性はこういったものなのだろうか。

そこで本論では経済的に発展しているはずの南アフリカにおいてなぜこれ程まで HIV/エイズが拡大してしまったのか、その原因を歴史的な政治体制やこれまで行われてきたエイズ対策などから考察する。さらにアフリカ諸国の中ではエイズ対策成功国と言われているウガンダやセネガルの例などと比較しながら、南アフリカに適したエイズ対策を考え、提示したいと思う。

本論の構成は以下の通りである。まず第 1 章では、南アフリカがどのような国が特に経済面に関して詳しく述べ、また南アフリカにおける HIV/エイズの現状について述べる。次に第 2 章では、アパルトヘイト期、マンデラ期、ムベキ期の 3 つの時代に分け、それぞれの時代でのエイズ対策を述べた上で南アフリカにおいてエイズが拡大した原因について探っていきたい。さらに第 3 章では 2009 年 5 月の大統領選挙で当選したジェイコブ・ズマ大統領のエイズ対策について述べたい。最後に終章として、他のアフリカ諸国などのエイズ対策と比較しながら筆者が考える南アフリカに適したエイズ対策を提示し、今後の南アフリカにおけるエイズ対策の展望を述べたい。